

誦諧鑄 十九編

白英



社來 左簾

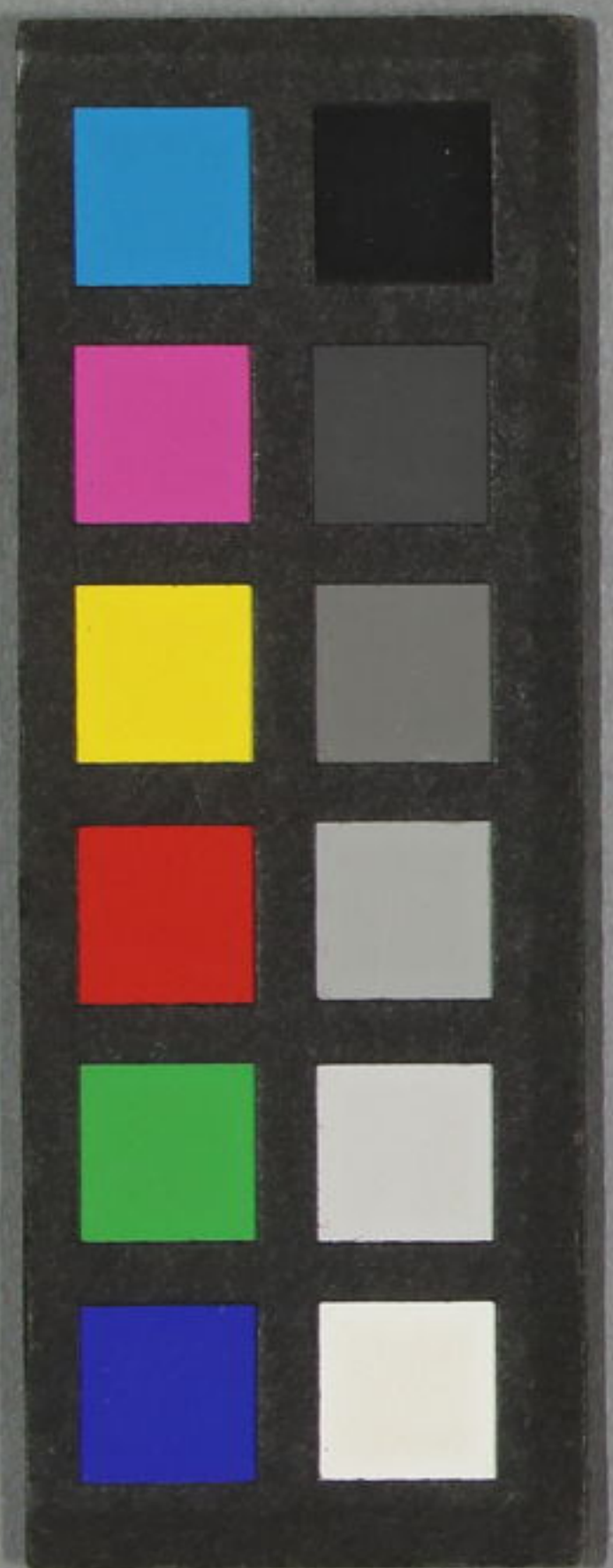
蟻粒 壺外

田社 規外

木英 妻

七冊之內
七

5
1928
14



目 へ 5
號 1928
卷 14

西
行
記

乃りけふの暮乃を
秋の夕糸を乃衣と云
乃り遠りと判ちむ
人しの心しとま
かゝるハ世し
のるひ

茶

一
新井

横はし、一決とほき、まき、
臆とき、く、く、武士の祿、
蠅、蛇も、猫乃、尻、構、
梅の本、性、を、つ、ん、と、
持、菜、もの、せ、く、星、
井、出、乃、蛙、と、香、好、
前、産、し、る、も、女、房、の、
積、と、も、按、廣、虎、の、
磁、石、の、部、き、地、
の、ぶ、く、小、齋、
所、の、あ、と、く、ま、
新、棧、あ、小、
英、男、く、と、
急、け、い、
は、な、ら、
翔、く、く、く、
天

東雲齋

隆弱、
万、
ひ、
二、
け、
ゆ、
又、
と、
を、
私、

笠 左 簾

大、
得、
又、
沖、
文、
は、
赤、
赤、

〇
竹
十九

一東井
一東井
一東井
一東井
一東井
一東井
一東井
一東井
一東井
一東井

一東井

活潑なまぐ
多助
一色のうろ
糸介志の
和伝人名
めくろり
この下
考ふべし

天代の産ぬらりと書き文妙
女の女をけりちていも
掃も一よい水の掃古
坊もたえぬ雨玉乃掃
二ッ巴よ多乃乃千活
何掃掃掃掃掃掃掃掃
狼煙の掃も電乃走り
弦きけ矢の何やまぬ老
え方ふあてる麻ふ川
斤子の長いやれ菜掃
未来へ虫乃ふみい
造化乃名と六えぬ保姫
掃えいてもをきハ
子始よ来ると掃屋久き掃
両玉かハ江戸の掃外
僕買せる土乃子

洛規外

辨湖珠も毒の毒ハ消悪て
上戸の法有掃く屏掃
も石の船と度と女も宝舟
白法とか用毛のう掃
七粒の掃ハ若菜の掃間
鯉ハ魚の扱いてな
掃もいでも笑ハ
掃牙小正ハく畏る氏士
上那も旦那言年の僕
掃ハハハハハハハハハハ
江戸の度の末ハハハハハ
小戸乃乃乃乃乃乃乃乃
漢炮とあかまハハハハハ
掃ハハハハハハハハハハ

一萬井

一萬井
一萬井
一萬井
一萬井
一萬井

一萬井

付らうら右法
の延りくくと
舟をくく
まの白く
考ふべし
十八巻又全

子徳樹のやうな数と伸
運いほり系と川出
大名小本陣乃町の巖池
軽市の帯小川の家の月
天窓がくして子乙女の尻
又香遊小を叩く窓
君も朱顔れまの暁
空解の帯は解るや
る市の結布て拂ふ蚊
屏風の形て涼む大詠を
月もくくおる水の流
麻枝袴の吐きこころ
牛房くく川を啼
二ツ近松うめくく藤まき
志くく内(五)ふ本始や

黒部素粒

祈の本いがきとものを
不中りぬけの汁と後る汁
すしいもかきいの硝子屋
煎結して鳴止こ汁雲
魚仕家さて灯乃とあり能り
淀川ハ昼同宗ても夜う
米搗の蠅くく熱るはく
初音ハ秋にらるる日
むくまきくわ輪かけハ不
しましはさる鬼と云ふ
こまらくく志そよに
き人の部屋なまきり
ふ来きて五湖り
糸了れぬを二周
蝶
板
さ
下
カ
る

山方白英
 一井舎

一井舎

強弱交る一
 二夕のぼりな
 才一とん
 神 教
 燕 植
 賞 思
 物 思
 雲上 人名
 名不 名
 行 行
 大概十八編の
 々やふに

山方とくきす西
 二休天々亮を
 獲後
 引後
 雁を
 居眠
 石舎
 ちの
 大風
 洗後
 徳利
 甕
 賭
 茄子
 ち

山方白英

入梅
 折
 猫
 混沌
 屏風
 老人
 天
 酒
 報
 薫
 女
 門
 女
 女

日光地名

梅 樞

松 樞

杉 樞

竹 樞

柳 樞

萩 樞

橘 樞

桃 樞

李 樞

杏 樞

梨 樞

栗 樞

柿 樞

葡萄 樞

蘋果 樞

梨 樞

東陽菴

強弱史より

身と見えし

一月をりも

言判有米上の

多分は三のり

一その首をり

しる

冠 蟻粒

多梅や日向はこもるくみ着

妻の采果の玉を飾りけ

版権ハ売れ水鏡のうらみ若

折首、津田飛治下寺の若

遠的の交りり風の蝶かろ

小松りい衣りり金 蝶、新

妻店と遊まらる 棒 きい

形石(ヤウ)の治風呂のりきん

板柱て石臼と信りりきん

けやうも是れらうし 河内園本

茶湯のの善おいりり 切らじ

夜とてまの伸ひハ角虫を蛭牛

巴やれ難てふくき そのの 價

草い子とゆえぬ口もふ 雲の江戸

多の子は山く三里梅と行て

梅りり硯の未くし 少 ちる坊

「重打まの善のまきく日枝松川

小多松んで麻子 庚る 登

「松の風夜まよまのをを物

炭たけりしとと倦く 飯 卷

「教るまきり」遊風文てををを

山くくくく 坊の 福信け

「茶履ま履まよ二人思り中

老女、情口 教ハカ

「まきりは男カ 及ハハ

津利運のを取生碎 音余坊

「坊かきりく来る 案の上

「氣小入り、事ぬくぬハ裸でも

「風のまきりまきり星月夜

お見の松と下りく小 便。

吉 号 権也
 余色
 人名、古物、
 買色、
 娘、
 妾の、
 類

木花菴

所わろり
 植物 水辺
 濂倉地名
 又田社好木
 買色 病作
 近在比名
 茶の表記
 名物
 名物

舟をく、土の、
 田植も、
 今も、
 夕日の、
 橋屋の、
 鞠の、
 井の、
 女房の、
 答を、
 洋花と、
 や、
 我子の、
 命、

白柳田社

被の、
 別、
 追、
 所、
 今、
 其、
 草、
 怪、
 独、
 蠟、
 何、
 舟、
 終、

淡島...

船遙鏡マ... 舟の夕燈... 淡島... 懐胎... 湯... 古... 改... 十八... 呼... 涙... 雨... 化... 夫... こい...

星運堂誹書目

東嶽山下谷竹川 花屋久次郎

誹諧

京都... 美...

四季發句帳

京都... 追...

全後編 全上

家雅見種

南山... 江戸...

枝筆 反故齋果然著 高...

靈阿加梨

吉中庵... 諸...

全後編 全上

薄暮川

諸君ノ... 僕...

全後編 全上

多景津句理

存...

遺笈波 存...

古来庵句集 有義 發句

初稿 有義 高直頭多洲 風者撰

ぬさく 有義

日さく 有因

ふさく 有因

長き日 有因

春のつらみ 有因

野槌 有義 發句

櫻台十二歌仙 有義 列

飾墨 有義 高直 有義

かき野 有因

古来庵句集 有因 有義

江の見 有因

春草集 有因

俳諧二代集 有義 有因

吾妻童 金瓶 有義 高直集

雙喜會儀 在博備十句論評 高直句

抄晋問答 其用未末 誦論書

俳諧正臣集 半砂例 十歌仙

樓川句集 編口撰

冒明句集 寛永撰 述刻

雙後路談 其用坐宗近ノ圖像并 發句

野錦 吉門 高直句集

志のつらみ 祇徳 高直 句集

八景のつらみ 江戸五十句 高直 退任者

附合高直部類 古玉 句集

田代句集 上同

俳諧平河 未通撰 不言高直

正風 俳諧得道解 貞義著 俳諧百集 山能著

鷄口發句集 同列 句集 松川句集 鷄口著

きりぎりす 鷄口著 五十年自筆 西判月並句集 鷄口著

花鳥合 空馬撰 十二歌仙 方營發句集 空馬撰

空馬流 空馬撰 花鳥集 空馬撰

玉流 空馬撰 花實集 秋色庵著

下句 空馬撰 面鏡 空馬撰

綾錦集 菊田治源撰 中今宗近原撰 合後編 近列

誹風柳樽 川柳方句合馬也 句集 句集

柳樽拾遺 川柳方句合馬也 句集 句集

全末摘花 全人力句合本列ノ可矣句 初篇 三篇出来

万句抄 平林宗近万句十五卷 俳諧百人句 陸馬撰

江戸四天王 初篇ヨリ五篇ヨリ 燕志月並發句集 句集

若眼鏡 藤一撰 蕉翁渡唐之像 石塚著

俳諧百十草

文未竟

同折花集

山崎

同如是俳

在轉宗匠句
兼翁百理追憶

同十々俳解

志

遊覽志

編年
山崎近江地客最

山崎

後集

山東遊覽志

高師著
錄會全次
寄古歌
武江近在二限
兼會東近在浪行

近在所名集

武江近在二限
兼會東近在浪行

至後編

礎

一編著
當時流行失
白之年

增補俳諧礎

而合花

山崎

山崎

俳諧二冊子

白山著
浴徳坐歌仙
發句入

百十鳥

園女發句
高判

同十里獨步

素綾著
俳意委記
自然自得

同年代記

素綾著
委細記

同器新集

得器定匠
高判

同後編

全上
三篇編出

桑林

岩松著
歌仙發句

俳諧管芽野

平砂著
聖朝御年田集

俳諧五萬戈

得器著
五萬句高志

二見浮文臺記

南山著

接物之核

南山著
判者
夫比人
上
入

○靈門俳書類目錄

俳諧句牒紙

牛心著
画入發句
歌仙

同拔萃

天満堂著
類面之發句

靈門發句帳

同
列之者著

靈門

三編
近刻

一陽井素外先生著

鶏談窓藏

梅翁發句集

類句辨

古く、リ類句ヲ並テ
見、反ヤ、ウ、ロシセ
ル也

江戸川

是、上蒼孤、良歌、句、
前句、一、三、一、良、徳、淀、川、
做、七、素、外、中、教、附、句、也

五色梅

素外連中梅題發句

右蒼孤
素外拍掌十句

蒼孤、席、々、取、ノ、附、句、ヲ、ヒ、ロ、セ、
素外ノ、句、ニ、續、リ、十、句、ト、ナ、セ、ル、也

一物連歌

室了、本、外、評、論、著、
得、案、同、季、同、油、と、う、く
各、指、吟、也、也

古今七夕發句集

モ、ソ、ノ、色、紙、
大、書、キ、ム、キ、
ケ、ア、フ、ル、人

紀行春晔

素外、在、津、道、
付、菜、一、巻、地

天狗

借、室、著、
細、く

手毎花

湯井、評、物、
意、也

百貫

素外、著、
意、也

猿筑波集

州合兵白新編
郡分著

俳諧十歌僊

五七五七七
長卷美

同神田集

松仙古今
復白
十四卷
梅

俳諧社結梅

平砂例附台
息田下流葉

同沖の梅

同上
同人集

玉花勝覽

七五七七下
生井
梅流流右依梅

東武多少庵俳書目

東武山下
里運堂
花屋久次郎

鹿島紀行

芭蕉拍真詩
門
鹿島句等

其葉裏

松嶺庵終焉記
百首
仙
多小庵秋八梅

心と心

松嶺庵大無相
紫菊房右孫
四李
面句并
附台發句

庚子道途

同門
雪發句
并
仙
以月庵遊之撰

續而時鳥

同門
卯公句
并
百首
多少庵撰

兒午柏

夾林
布因
梅路
舟父
涼袋
其外
四吟
身仙
并
讀句

句讀秀撰

白達
響見
因
多少庵
秋山
西
野堂

柳居發句集

松嶺庵
松嶺庵

甲子吟行

芭蕉
翁
真筆
波辭
撰

大無發句集

松嶺庵
撰

ぬく木と春

柳居傳系并白糸

秋八撰

寛政百頁多小庵句集

同句集後編

柳居傳系

俳諧 持存

善用指 衆中本

此小冊八巻にありあるは季寄の語り正しく
且本字並記し舟室木の下々未きふ歌の
詞をよせ余は又あらんすあり一は俳諧の
式并に神歌英人屋山水歌木の詞をとりく
第のく自叙を極楽句の切字未を述ゆ字
此席の傍室より出た

江都東叡山麓下谷町

花屋久治郎

